

学校を応援したい8

「夏休み宿題支援教室」～宿題お助けマン参上！～

野木町教育委員会事務局生涯学習課 主事 永山 司

野木町公民館では、毎年8月上旬に小学生対象の宿題支援教室を開催しています。地域のボランティアの方々に講師となっただき、作文と絵画の宿題を3日間に分けてサポートをしています。

一聞すると、学校の宿題を大人が手伝うなんて、と思われるかもしれませんが。しかし、その点については、問題の考え方や技術のヒントを教えても、子どもたちのやる気や自主性を阻害しないように、講師となるボランティアたちは細心の注意を払っています。

夏休みの宿題は、子どもたちや保護者にとって避けられない夏の風物詩とあってか、教室の申込み初日には毎年長蛇の列ができ、それがまた野木町公民館の夏の風物詩となっています。

来年もたくさん子どもたちの真剣な眼差しが見られることを期待して、今後も学校と子どもたちと地域のボランティアを繋げられるように実施していきたいと思えます。



＜教室の様子＞

リレー「となりの社教主事34」

「名刺から思うこと」

小山市立間々田小学校 教諭 櫻井 竜彦

社会教育主事講習の事前打合せで「名刺を準備しておく」という話を聞き、慌てた。しかし同時に、初めて自分の名刺を持つことへの期待感もあった。

今、私の手元には主事講習の際に交換した名刺が数十枚ある。一枚一枚見返してみると、相手の顔や声までもが懐かしく思い出される。これから先も大切にしたい宝物である。

主事講習を終えてから、自分が担任していた高学年の子どもたちにボランティア活動を提案した。学校のため、下学年のために活動するボランティアである。そこで私は、もう一つの提案をした。

「自分の名刺を作って相手に渡してみよう」

子どもたちの目が輝いたのは言うまでもない。些細なことかもしれないが、主事講習がなかったら、おそらく私にこの発想はなかったであろう。

これからも、経験を様々な場で生かせるよう努力していきたい。

第2回研修会報告

11月20日（金）小山グランドホテルにて平成27年度下都賀地区生涯学習研究会第2回研修会が開催されました。

研修会は、コーディネーターに北海道教育大学釧路校の廣瀬隆人教授をお迎えし、「より豊かな教育活動のために～地域に開かれた学校づくり」と題しましてシンポジウムを行いました。

学校関係者代表のシンポジストとして本研究会の小山義雄副会長に御登壇いただきました。（他に宇都宮市立峰小学校の「地域コーディネーター」さん、「ボランティア」として下野市を元気にする会の鈴木祐孝会長に御登壇いただきました。）

立場は異なりますが、「社会における未来の担い手」である子どもたちへの思いはみなさん同じです。質疑応答をとおり、会場の参加者も含めて熱心に研修会を行うことができました。



＜研修会の様子＞

第3回研修会案内

来る平成28年2月2日（火）に野木町公民館において平成27年度下都賀地区生涯学習研究会第3回研修会を実施します。

研修会は、「地域活動の充実と絆づくり～地域に貢献する青少年の育成をめざして～」のテーマのもと、講演及び協議を行います。

講師は宇都宮大学特任准教授の若園雄志郎氏です。

様々な立場の方が参加予定ですので「地域連携」のヒントや糸口が期待できます。

ぜひ、この機会に地域のネットワーク構築を図り、授業の充実やいきいきとした地域づくりを始めてみませんか。みなさんの参加をお待ちしております。

編集後記

各学校において、地域連携が進んでいます。先日のフィギュアスケートのグランプリファイナルで羽生結弦選手が世界最高得点を更新し3連覇を成し遂げました。会見で応援してくれる人への感謝の気持ちを述べていました。学校も地域への感謝の気持ちを伝えることで、応援してくれる人が増えると感じました。学校、行政と地域のネットワークがさらに強く結びつくといいですね。（M）

情報交換 “地域連携”

○地域連携ってどんなことをするのか？
○会員同士で情報交換をしていきましょう！

会員のみなさんへ 特別寄稿

「社会教育主事有資格教員の覚悟！！」

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
社会教育調査官 井上 昌幸

教育の在り方をドラスティックに改革する歴史的な内容の答申が中央教育審議会でもとめられた。この答申の柱は、「地域とともにある学校」への転換を目指すことが示されており、地域でどのような子供を育てていくかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、学校と地域が一体となって子供たちを育てていく学校を求めている。

この答申において、私たち社会教育関係者に関連する部分は、社会の変化を柔軟に受け止めていく

「社会に開かれた教育課程」、その観点から教育課程の編成、実施、評価を行う「カリキュラムマネジメント」、地域人と連携して学校全体の総合力を一層高める「チーム学校」など枚挙に暇がない。

特に、学校内において地域との連携の推進を担当する教職員を地域連携担当教職員（仮称）として法令上明確化するとともに、社会教育主事有資格者の活用を図ることを検討している点については、まさに「栃木方式」の全国展開である。

今後、この答申を受けて学校教育法体系の改正に着手される見込みであるが、私たち社会教育主事有資格者が今後の教育改革に大きな役割を果たしていくことが期待されていることは間違いない。社会教育主事有資格者は、目先の取組や活動だけに目をとらわれず、広い視野でそれぞれの学校や地域の状況を俯瞰して、地域とともに子供たちを育てていく体制づくりの使命を受けたと覚悟していただきたい。

一緒に頑張りましょう！！



<井上 昌幸氏>

「地域連携教員に係る調査より」

県立石橋高等学校 教諭 山崎 浩之

昨年度、幸いにも文部科学省の国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの内地留学生（実務研修生）を1年間務める機会に恵まれました。

様々な研修機会を経験して、多くの研究者にお会いすることもできました。また、私自身も研究というレベルではないけれども、社会教育に関する調査をして、視野を広げる機会にも恵まれましたので、この場をお借りして一部紹介したいと思います。

これは、平成27年1月16日（金）に総合教育センターで、平成26年度第3回地域連携教員研修が開催された際に、参加された先生方にアンケート調査を依頼して、その結果をまとめたものです。

（裏面図1 参照）

264名の先生方の協力を得まして、調査することができました。回収率は86.6%ですので、まずまずの数値になりました。

続いて、ネットワーク、信頼、社会参加という項目ですが、これはソーシャルキャピタル（SC）という考え方に、地域連携教員の取組が当てはまらないかと考えて、このような項目になりました。

（裏面 図2～図6 参照）

地域連携教員初年度の調査なので、判断が難しい点もありますが、地域連携教員の取組が学校と地域を結ぶ関係性、SCの醸成につながっていると数値的にも考えることができます。児童生徒の育成のために、今後、地域連携教員の役割がますます重要となり、また学校と地域双方から大きな期待がよせられるのではないかと思います。

※なおこの内容は、平成27年11月8日（日）「第36回日本生涯教育学会」において、昨年度の私の指導教官でありました、井上昌幸社会教育調査官（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）と共同で発表した内容です。



資料編

「地域連携教員に係る調査より」

調査結果

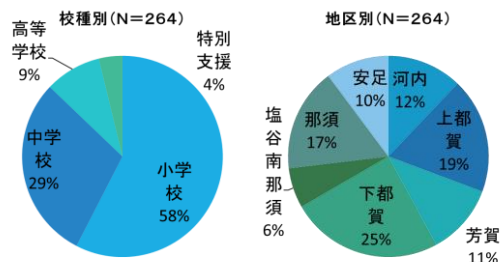


図 1

○ネットワーク

近隣でのつきあい(主な項目について)

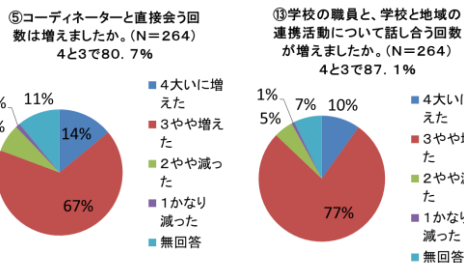


図 3

○信頼

相互信頼・相互扶助(主な項目について)

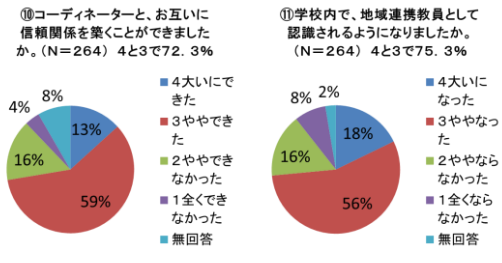


図 5

○ネットワーク

社会的な交流(主な項目について)

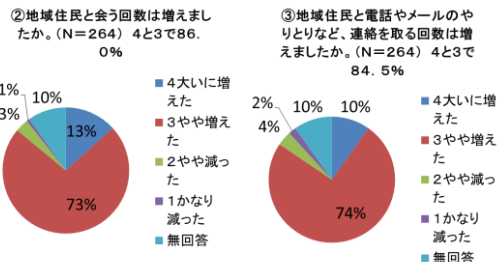


図 2

○信頼

一般的な信頼

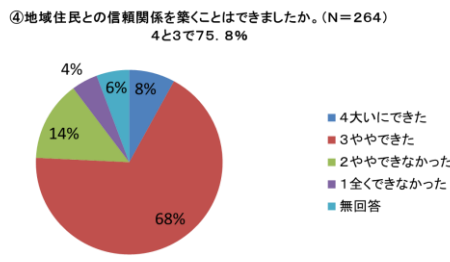


図 4

○社会参加

社会的活動への参加(主な項目について)

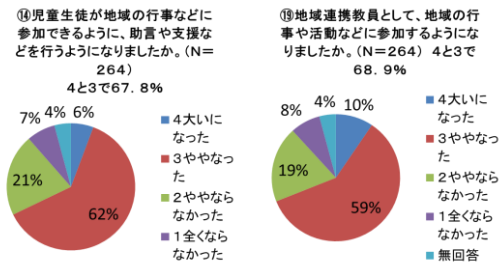


図 6